

曲田代

—福岡県宗像市曲所在遺跡の発掘調査報告—

宗像市文化財調査報告書 第54集

2 0 0 4

宗像市教育委員会

MAGARI TA SHIRO
曲田代

—福岡県宗像市曲所在遺跡の発掘調査報告—

宗像市文化財調査報告書 第54集



2004

宗像市教育委員会

序 文

平成15年4月1日、旧玄海町と旧宗像市の新設合併が行われ、新しい宗像市が誕生しました。歴史的にも地理的にも深い関わりがある旧玄海町と旧宗像市との合併は、さらなる発展への体力づくりとして期待されています。

合併によって57件を数えることになった国、県、市指定文化財をはじめ市域の貴重な歴史遺産の活用を図るほか、土地開発に伴う各種文化財の調査を行い、重要なものについては保存、整備を図るなど、豊かな歴史環境に包まれたくらしのため、より一層尽力する所存です。

しかしながら、各種の開発は私たちのくらしに利便性をもたらす反面、自然環境や歴史的景観の変貌を伴うものであり、残念ながら多くの文化財は消滅の危機にさらされ、常に緊急な保存対策を迫られています。

今回報告する曲田代遺跡は、平成14年度に実施された弥生時代後期から古墳時代を主体とする集落遺跡の調査記録を収めています。

本書が学術研究だけではなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、また文化財保護行政に対するご理解の一助となることを念願いたしますとともに、発掘調査全般にわたってご協力をいただいた多くの方々に心から感謝の意を表す次第であります。

平成16年2月25日

宗像市教育委員会

教 育 長 川 崎 雅 光

例　　言

1. 本書は個人住宅建設に伴い、平成14年度に緊急発掘調査を実施した曲田代遺跡（宗像市曲227番2）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は宗像市教育委員会が事業主体となって実施した。
3. 曲田代遺跡の福岡県文化財番号は、330806である。
4. 本報告書の遺物番号は挿図や遺構番号に関わらず、すべて通し番号である。
5. 遺構番号は遺構種類ごとの通し番号で、遺構の名称は次のように記号化した。
SK：土坑　　SC：竪穴住居　　SD：溝状遺構　　SP：柱穴
6. 基準点測量は（有）三田測量に委託した。平成14年国土交通省告示第9号の規定による第Ⅱ座標系を用い、平面直角座標値は、世界測地系に対応する。従来の座標値とは異なっており注意されたい。方位はすべて磁北である。
7. 遺構実測図、平板測量図は白木英敏、吉田恵美が行った。
8. 遺物の実測は吉田、岡本格が主に行い、白木が補った。
9. 調査区および遺構写真の撮影は吉田、白木が、遺物写真の撮影は白木が行った。
10. 遺構、遺物の製図は中原美知子が、遺物の整理は西村広子、田代貞子、田崎絃子、東和子、濱田広美がおこなった。
11. 本書の執筆および編集は、白木が行った。
12. 本調査において出土した遺物および実測図、写真等の資料は、宗像市教育委員会で保管している。

目 次

第1章 序 説	1
1. 調査の経過.....	1
2. 組織と構成.....	1
3. 位置と環境.....	2
4. 調査の概要	2
第2章 調査の記録	4
1. 土坑の調査.....	4
2. 壴穴住居の調査.....	11
3. 溝状遺構の調査.....	12
4. その他の調査.....	12
第3章 ま と め	13

挿図目次

第1図 曲田代遺跡周辺の遺跡分布地図 (1/25,000)	2
第2図 曲田代遺跡の位置図 (1/5,000)	3
第3図 曲田代遺跡遺構配置図 (1/100).....	5
第4図 SK 1 遺構実測図 (1/10)	5
第5図 SK 1 出土遺物実測図① (1/3).....	7
第6図 SK 1 出土遺物実測図② (1/3).....	8
第7図 SK 2 · SC 1~3 · SD 1~3 遺構実測図 (1/20 · 1/60)	9
第8図 SK 2 · SC 1~3 · SD 1~3 · 包含層出土遺物実測図 (1/3 · 1/1)	10

表 目 次

表1	曲田代遺跡堅穴住居一覧表	14
表2	曲田代遺跡その他の遺構一覧表	14
表3	曲田代遺跡出土遺物観察表	15

図版目次

図版1	(1) 調査区遠景(西から)	(2) 調査区全景(南から)
図版2	(1) 調査区全景(東から)	(2) SK1・SC1・SD1周辺(西から)
図版3	(1) SK1上層遺物出土状況(007他、南から) (2) SK1上層遺物出土状況(007他、東から) (3) SK1中層遺物出土状況(003・004他、南から) (4) SK1中層遺物出土状況(002・006他、北から)	
図版4	(1) SK1下層遺物出土状況(008、北から) (2) SK1完掘状況(南から) (3) SK2遺物出土状況(024、北から) (4) SK2完掘状況(西から)	
図版5	(1) SC1(西から)	(2) SC2(西から)
図版6	(1) SC3、SD2・3(西から) SK1出土遺物	
図版7	SK1出土遺物	
図版8	SK1・2、SC1～3、SD1～3、包含層出土遺物	

第1章 序 説

1. 調査の経過

平成13年11月6日、宗像市曲227番1および227番2について農地転用（地形変更）に伴う文化財事前協議申請書が提出された。それを受け現地踏査を行ったところ、丘陵縁辺の河成段丘上で集落遺跡の存在する可能性があることから、平成12年11月21日・24日及び平成13年1月11日・12日に試掘調査を行った。その結果、丘陵斜面部（曲227番1）には遺構は確認されなかったが、丘陵裾部（曲227番2）の畠地に弥生時代後期から古墳時代後期にかけての柱穴、溝状遺構や中世の整地層などが検出された。土地所有者と協議を行ったが現状保存は困難であることから造成工事に先駆け平成14年度に国庫補助を受け、平成14年4月4日から5月31日にかけて緊急発掘調査を実施し、今回報告する運びとなった。

文化財保護法にかかる手続き

発掘調査通知 平成14年4月25日付14宗教生第100号

埋蔵物発見届 平成14年5月9日付14宗教生第117号

埋蔵文化財保管証 平成14年5月10日付14宗教生第127号

2. 組織と構成

1) 平成14年度発掘調査組織

総括	宗像市教育委員会	教育長	川崎雅光
		教育部長	城月カヨ子
		社会教育課長	伊豆丸正敏
		文化財係長	原俊一
庶務・会計		同上	原俊一
発掘調査担当		主任技師	白木英敏
		嘱託	吉田恵美

2) 平成15年度報告書作成組織

総括	宗像市教育委員会	教育長	川崎雅光
		教育部長	城月カヨ子
		社会教育課長	伊豆丸正敏
		文化財係長	原俊一
庶務・会計		同上	原俊一
報告書作成担当		主任技師	白木英敏

3. 位置と環境

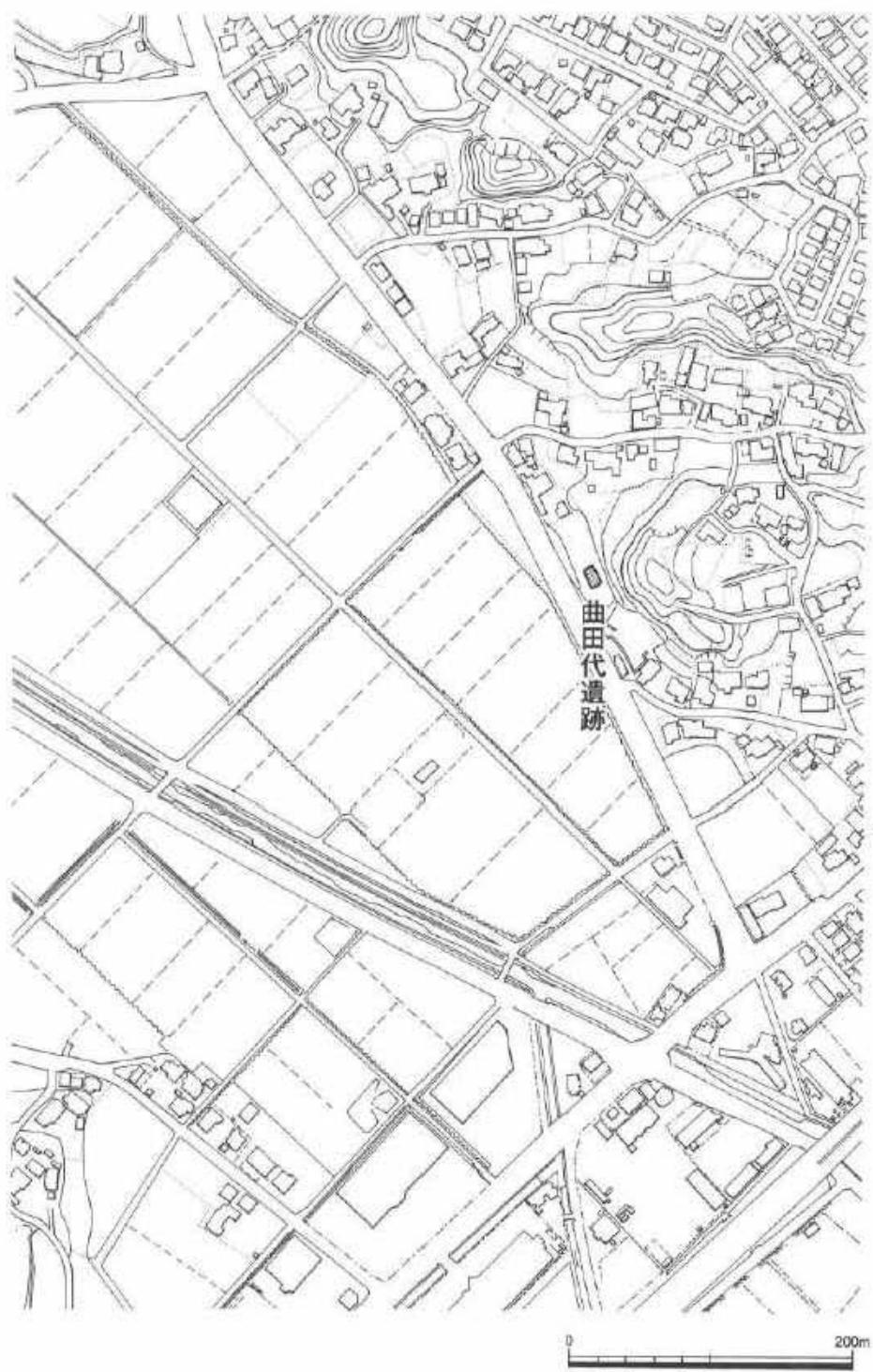
本遺跡は、宗像市の南部に位置し、釣川支流の朝町川右岸に形成された小規模な低位段丘面に立地する。西眼下には宗像有数の穀倉地帯が広がり、宗像市のランドマーク的なカントリー・エレベーターや宗像ユリックスを望むことができる。また東側の丘陵部は自由ヶ丘団地として昭和38年から大規模開発が行われたため埋蔵文化財の調査例に乏しい。周辺遺跡には弥生時代前期の貯蔵穴で構成される曲香畠遺跡や弥生時代前期後半～中期初頭を主体とする貯蔵穴群とそれらを囲むV字溝を検出した光岡長尾遺跡がある。

4. 調査の概要

弥生時代後期から中世にかけて断続的に営まれた小規模集落跡である。狭長な河成段丘低位面に沿って帯状に展開する集落遺跡の一部であろう。検出遺構は古墳時代後期の土坑2基、弥生時代後期の竪穴住居3棟、弥生時代後期と古墳時代後期の溝状遺構3条、柱穴群である。調査区西側には中世の整地層が残存し、若干の輸入陶磁器片を採集したが遺構は検出されなかった。SK1は6世紀後半の須恵器坏身・坏蓋、土師器甌・鉢・坏計23点が一括で出土しており、祭祀に関わる埋納遺構の可能性がある。



第1図 曲田代遺跡周辺の遺跡分布地図 (1/25,000)



第2図 曲田代遺跡の位置図 (1/5,000)

第2章 調査の記録

1. 土坑の調査

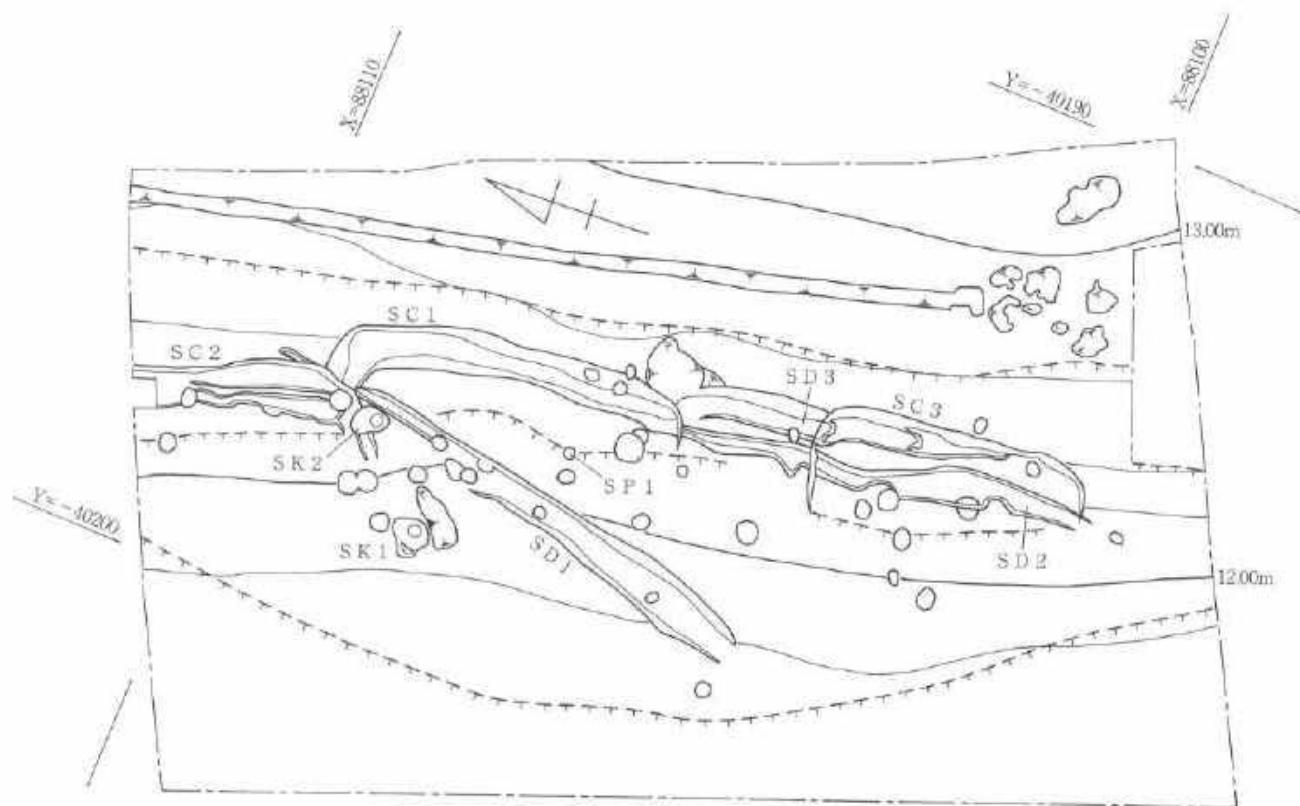
1) SK 1 (第4図・図版2・3・4)

調査区の北側、SD 1の西側に単独で位置する。平面は不整形で、断面は逆梯形を呈するが中位に2ヶ所三日月形のテラスをつくる。規模は平面0.51×0.51m、深さ0.4mを測る小形土坑で、須恵器蓋坏、土師器鉢・坏・瓶が計23点出土した。蓋坏、鉢類はすべて伏せた状態で重ね置かれ、瓶(023)は表土剥ぎの時点では原位置から動いたため取り上げたが、図示した鉢類の直上に横倒しで出土した。さらに、試掘調査時に取り上げた土師器坏(021)、須恵器坏身(005)は平板図に落しておいたポイントからSK 1出土瓶の上に他の坏類と同様、伏せ置かれていたと考えられ、以上の3点を図示した状況に加えたものが本来の遺物出土状況である。土器類はほとんどが完形品で破片などを含まないことから、何らかの祭祀に用いた後、一括で埋納あるいは遺棄したものであろうか。

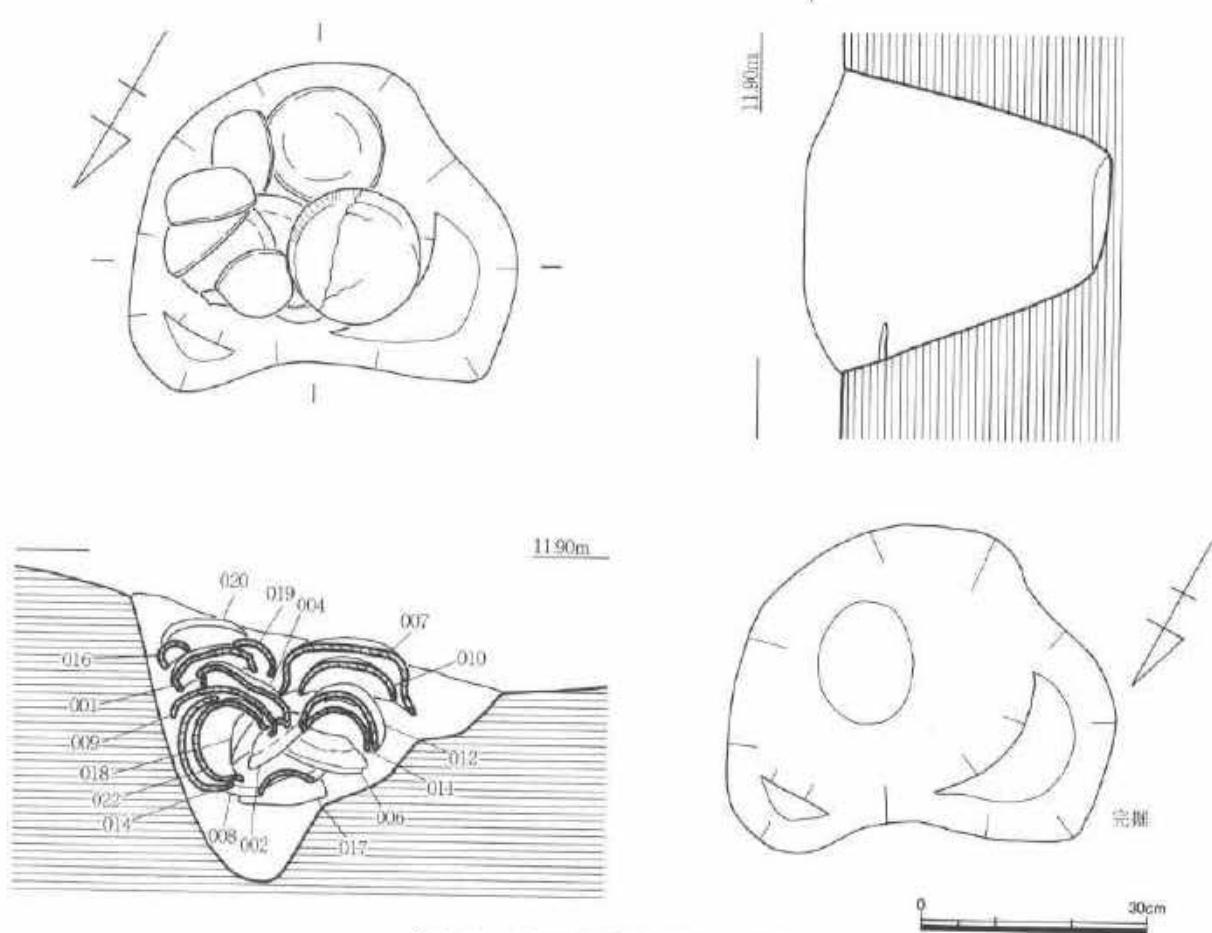
出土遺物(001～023)

須恵器(001～006) 001・002は坏蓋である。天井部と口縁部の境に甘い段を持ち、口唇部内面に小さな凹みをつくる。001は口径14.4cm、器高4.8cmを測り、胎土は小礫を含むためやや粗である。天井部外面1/2強に回転ヘラケズリを施し、ロクロの回転方向は左である。002は焼け歪みが大きい。口径13.8cm、器高5.4cmを測り、胎土は小礫を含むためやや粗である。天井部外面1/2に回転ヘラケズリを施し、ロクロの回転方向は右である。

003～006は坏身である。003は口縁部の一部を欠くがほぼ完形品である。体部は浅く、口縁部は内傾しながら立ち上がり端部を丸く收める。受部内面はオリコミによって明瞭な沈線をつくる。口径12.9cm、受部径15.1cm、器高4.8cmを測り、体部外面1/2に回転ヘラケズリを施す。ロクロの回転方向は左である。胎土はやや粗、焼成は不良で軟質のため風化が進み、色調は内面にぶい黄橙色、外面灰黄色を呈する。004は扁平な体部で口縁部は短く直状に内傾する。受部内面はオリコミによって明瞭な沈線をつくる。口径12.8cm、受部径15.1cm、器高3.8cmを測り、体部外面1/2強に回転ヘラケズリを施す。ロクロの回転方向は右である。005は試掘時の出土品である。体部は浅く口縁部は短く外反して内傾する。受部内面はオリコミによって明瞭な沈線をつくる。口径12.1cm、受部径14.8cm、器高4.2cmを測り、体部外面1/3に回転ヘラケズリを施す。ロクロの回転方向は右である。006は口径11.8cm、受部径14.1cm、器高4.6cmを測る。受部は小さく横に引きだし、口縁部は短く内傾する。



第3図 曲田代遺跡遺構配置図 (1/100)



第4図 SK1 遺構実測図 (1/10)

土師器 (007～023) 007・008は鉢、009～022は壺である。007は底部は扁平気味の丸底で深みがある。口縁部をやや内湾させながら外傾して立ち上がり、端部を丸く收める。頸部内面には甘い稜を残す。全面ナデ仕上げだが外面上半の口頸部付近にタテ方向、体部中位にヨコ方向の粗いハケ目が残る。胎土は精良で焼成も良好、色調は内外面とも明赤褐色を呈する。008は浅い体部から緩やかに外反する口縁部を持つ。胎土は精良で焼成も良好、色調は内外面とも明赤褐色を呈する。

009は口径14.1cm、器高5.4cmを測り、他の壺より若干大形で色調は鉢類に近い。器形はシンプルな丸底の半月形で、口縁部内面に内湾するにぶい平坦面をつくる。胎土・焼成は良好、色調は明赤褐色を呈する。

010～020は丸底の半月形を呈し、口縁部は内湾させるもの(010～013)、小さく外反するもの(017～020)、中間的形態でほぼ直状のもの(014～016)など若干のバリエーションがある。調整技法や法量に共通性が強く、同一工人集団、さらには同一工人の手によるものも含まれる可能性を考えてもよいだろう。外面はナデで仕上げるが、静止ヘラケズリの調整痕を残すものもある。内面はナデ仕上げであるが、弧状の沈線が多く残るものもあり、半月形のヘラ状工具によるケズリ調整痕であろう。法量は口径10.8～12.5cm、器高5.1～6.2cmを測る。胎土は良好もしくは精良で、色調はほとんど橙色系である。

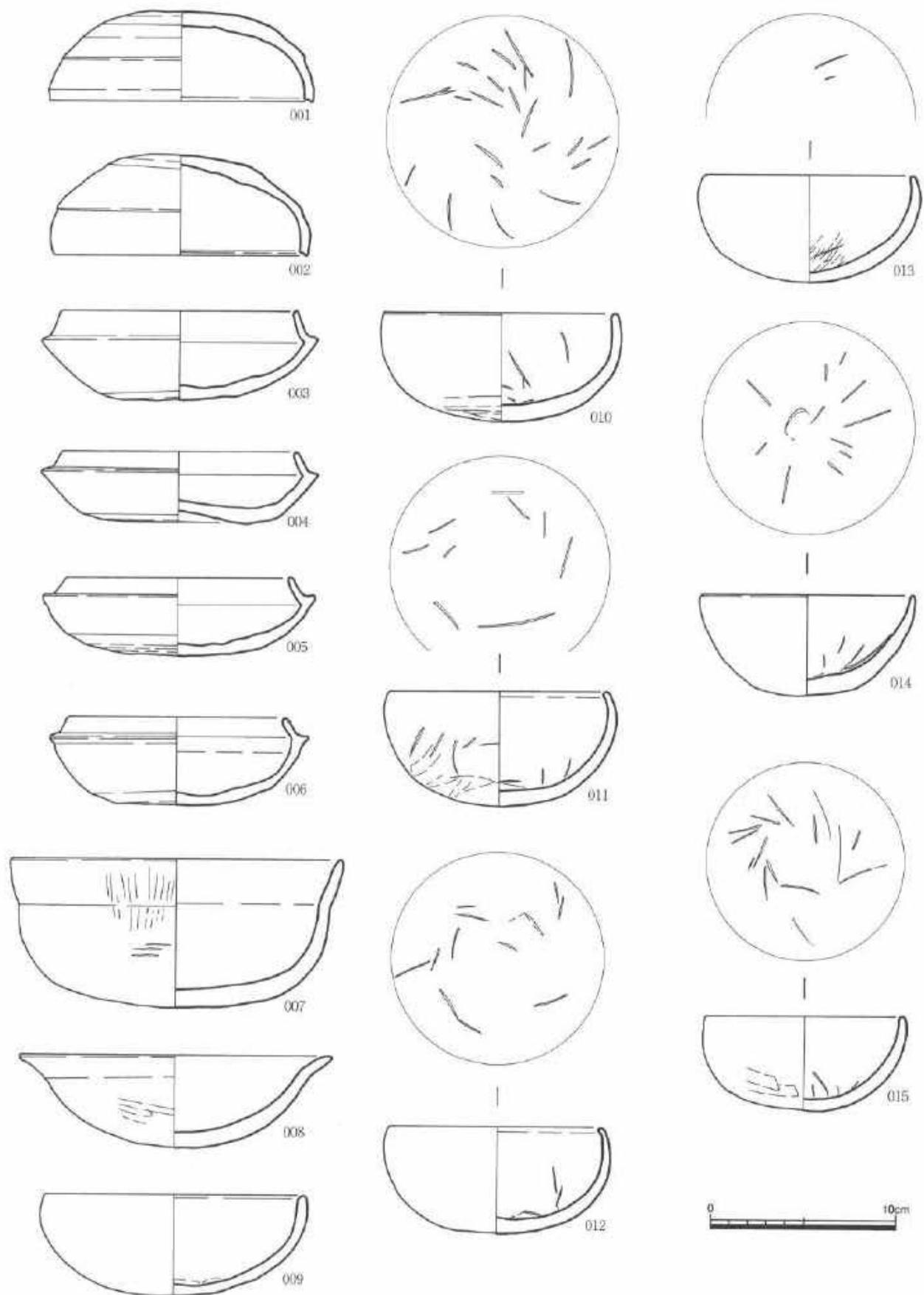
021・022は体部にやや深みがあり、口縁部を小さく外反させる。いずれも内外面の底部から体部下半にかけて静止ヘラケズリを施し、胎土・焼成は良好、色調は021が内外面とも橙色、022は内面にぶい橙色、外面橙色を呈する。023は甌である。残存部が少ないため把手部は残っていない。底部は粘土棧を渡す半月孔タイプであろう。口縁部はヨコナデ、体部は内外面ともタテ方向のハケ目調整が残る。胎土は精良で焼成も良好、色調は内面にぶい橙色、外面橙色を呈する。

2) SK 2 (第7図・図版4)

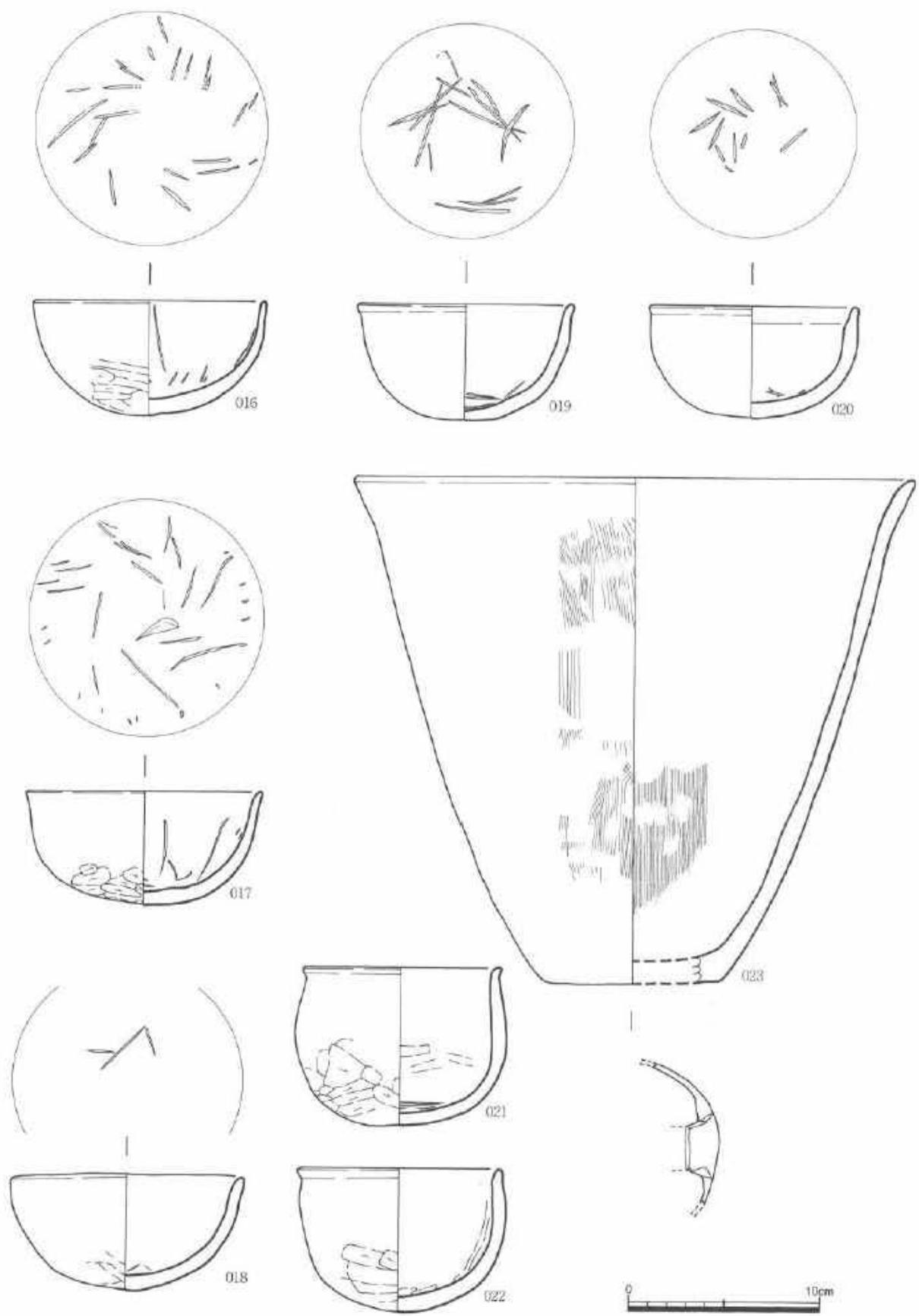
調査区の北側、SD 1の西側に位置し、SC 2の南側周壁溝を切る。平面は不整橢円形で、断面は逆梯形を呈する。規模は長軸0.55m、短軸0.35m、深さ0.23mを測る。土坑の掘方検出に失敗したため、高壺が浮いた状態になってしまった。高壺を取り上げ後、土坑の南側に直径0.42mの竪穴を検出したが、SK 2に切られる柱穴であろう。

出土遺物 (024)

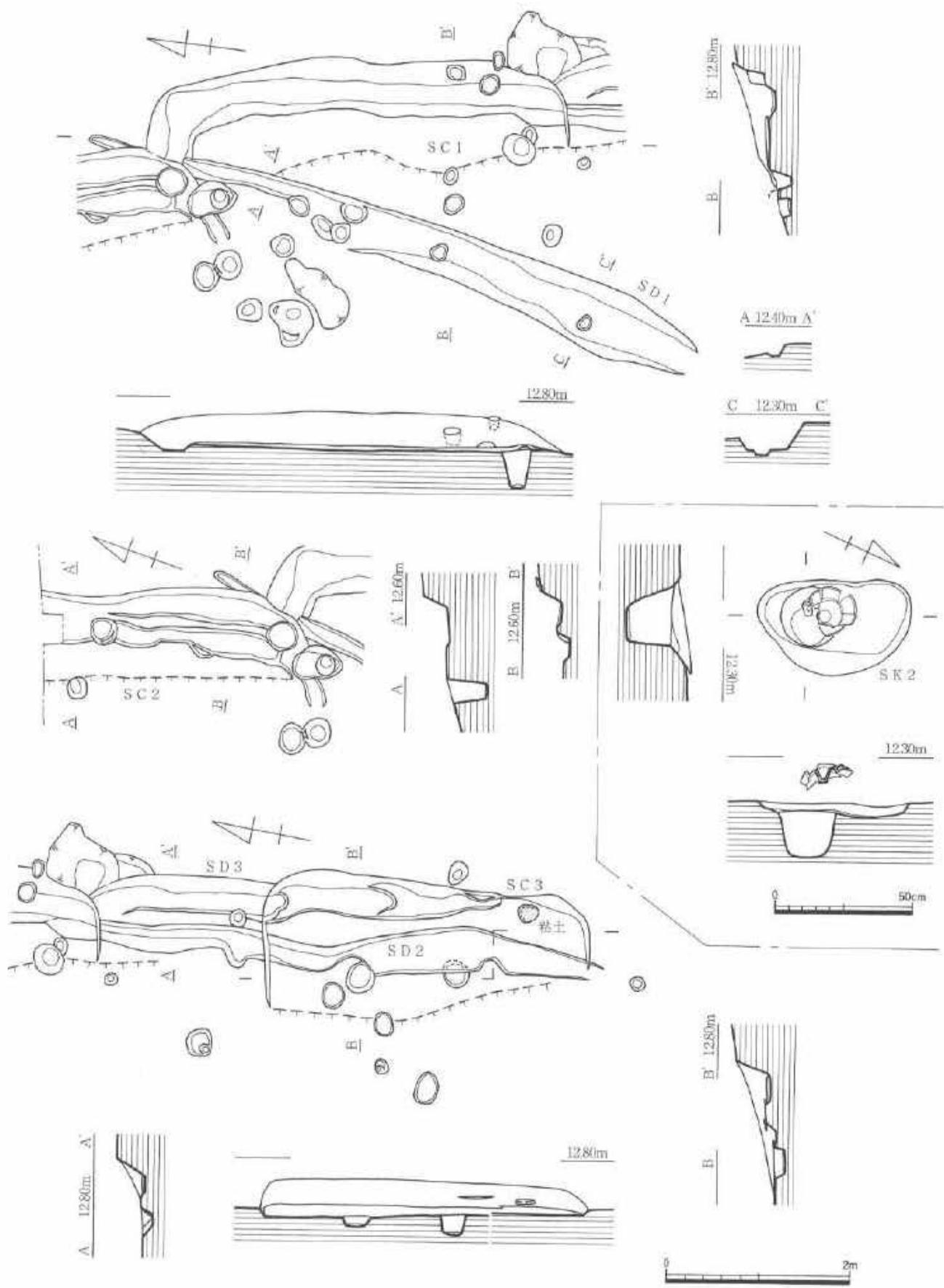
土師器 (024) 高壺である。脚裾部は強く屈曲し、壺部は深みがあり体部と口縁部の境に段を成す。口縁部は僅かに内湾しながら立ち上がり、口縁端部は小さく外反して丸く收める。脚部内面はヘラケズリ、他はナデ仕上げで調整する。胎土・焼成は良好、色調は内外面とも橙色を呈し、外面に黒斑を有する。口径14.4cm、器高12.7cm、脚底径11.2cmを測る。



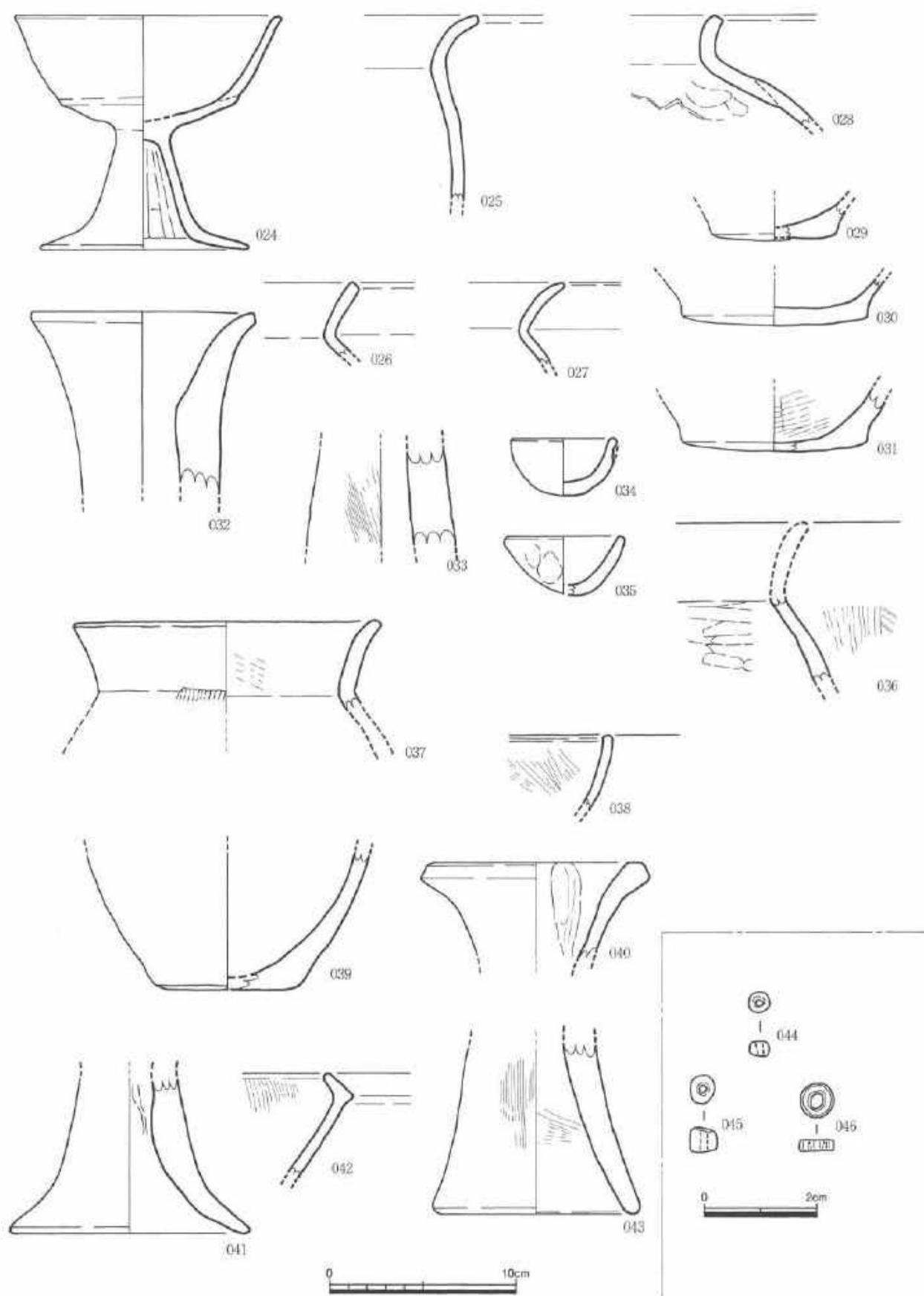
第5図 SK 1出土遺物実測図① (1/3)



第6図 SK 1 出土遺物実測図② (1/3)



第7図 SK2・SC1～3・SD1～3造構実剖図 (1/20・1/60)



第8図 SK 2・SC 1~3・SD 1~3・包含層出土遺物実測図 (1/3・1/1)

2. 壺穴住居の調査

1) S C 1 (第7図・図版2・5)

調査区の中央部やや北側に位置し、平面方形プランを呈すると推定される残存状況不良の壺穴住居である。完存する東辺は4.67mを測り、幅0.5～0.6mほどの周壁溝が残存する。残存壁高は0.38mを測る。主柱穴は不明である。

出土遺物 (025～032) すべて埋土からの出土である。

弥生土器 (025～032)

025～027は壺である。025の体部はあまり張らず口縁部は外反して端部を断面矩形に收める。頸部内面に稜線を有する。風化著しく調整不明。色調は内外面とも明褐～にぶい褐色を呈する。026は口縁部小片である。「く」字状に屈曲し、端部を断面矩形に收める。028は短頭壺である。肩部は張りが強く、口縁部は短く外反する。風化著しいが体部内面に接合痕及び指頭痕残存。色調は内面橙色、外面明赤褐色を呈する。029～031は壺か甕の底部である。凸レンズ状平底を呈する。029は壺か。復元底径6.8cmを測る。030は1/2弱の破片である。調整は底部外面ハケ目、他はナデである。復元底径10.0cmを測る。031は1/2弱の破片である。調整は内面ハケ目、外面は風化著しく不明。復元底径10.0cmを測る。032は下半を失う器台である。風化著しく調整不明。色調は内外面とも橙色を呈する。

2) S C 2 (第7図・図版5)

調査区の北端に位置し、北側は調査区外へと延びる残存状況不良の壺穴住居である。平面隅丸方形プランを呈すると推定され、東辺には周壁溝が2重に残存することから改変住居の可能性が高い。残存壁高は0.25mを測る。

出土遺物 (033・034・044・045) すべて周壁溝からの出土である。

弥生土器 (033) 器台の体部中ほどの破片である。外面ハケ目、内面ナデ調整を施す。

手捏ね土器 (034) ほぼ口径5.6cm、器高3.1cmを測る。

ガラス小玉 (044・045) 044は直径0.41cm、045は直径0.53cmを測り、いずれも色調はコバルトブルーを呈する。

3) S C 3 (第7図・図版6)

調査区の南側に位置し、平面隅丸方形プランを呈すると推定される残存状況不良の壺穴住居である。完存する東辺は3.6mを測り、周壁溝は有しない。残存壁高は0.3mを測る。

出土遺物 (035)

手捏ね土器 (035) 底部を欠くが口径6.3cmを測る。外面に黒斑あり。

3. 溝状遺構の調査

1) SD 1 (第7図・図版2)

調査区のはば中央部を南北方向に延びる溝状遺構である。床面は南に下り、規模は長さ7.1m、幅は最大0.73m、深さ最大0.29mを測る。

出土遺物 (036・037・046)

土師器 (036・037) 036・037は接点がないが、胎土・焼成・色調から同一個体と考えてよいだろう。036は体部片である。調整は外面粗いハケ目、内面ヨコ方向のヘラケズリを施す。色調は内外面とも黄褐色を呈し、外面の一部に煤が付着する。037は復元口径16.6cmを測る。色調は内外面とも黄褐色を呈し、外面の一部に煤が付着する。

白玉 (046) 滑石製で直径0.62cm、孔径0.23cmを測る。側面はタテ方向の研磨痕が残り、色調はオリーブ灰色を呈する。

2) SD 2 (第7図・図版6)

調査区の南半に位置し、南北方向に延びる溝状遺構である。SC 1・3に切られる。床面は南に下り、規模は長さ6.25m、最大幅0.5m、深さ最大0.11mを測る。

出土遺物 (038・039)

弥生土器 (038・039) 038は鉢か。内面に粗いハケ目を施す。039は体部上半を欠く1/4ほどの破片で、壺か甕か判然としない。復元底径7.8cmを測る。

3) SD 3 (第7図・図版6)

調査区の南半に位置し、南北方向に延びる溝状遺構である。SC 1・3に切られる。床面は北に下り、規模は長さ4.5m、最大幅0.4m、深さ最大0.12mを測る。

出土遺物 (040～042)

弥生土器 (040～042) 040・041は器台である。042は複合口縁壺の口縁部片と思われるが、口頸部が内湾気味である。内面に粗いタテ方向のハケ目を施す。

4. その他の調査

1) 包含層

調査区の西端に堆積する弥生時代の遺物包含層である。遺物量は少なく細片が多いため実測可能なものはほとんどない。

出土遺物 (043) 弥生土器の器台である。1/2片で残存高9.2cm、脚底径10.6cmを測る。

第3章 まとめ

1) 遺構の時期と変遷

全体に遺物量が少なく、時期比定等には疑問が残るがあえて行っておきたい。SC1は甕・壺の凸レンズ状平底や甕口縁部片から弥生時代後期中頃である。SC2は器台片や手捏ね土器のみの出土だが、SC1を切ることから弥生時代後期中頃以降の弥生時代内に収まるものと推定できよう。SC3は出土遺物が少なく詳細不詳だが、SD2などを切ることから弥生時代後期前半以降の造営であろう。

SD1は埋土に弥生土器を混入するが、最下層から出土した甕(036・037)の口頭部片が当該期のものであろう。詳細は不明だが古墳時代後期(5~6世紀)と考えておきたい。SD2も出土遺物は少ない。甕と思われる039は平底底部を呈し、底端部にやや丸みを持つことから弥生時代後期前半頃か。SD3は器台のほかには複合口縁部片(042)のみである。弥生時代後期の中で捉えておきたいが、SD2と平行しいずれもSC1に切られることからほぼ同時期の可能性を考えてもよいだろう。SK1は出土須恵器蓋坏から6世紀後半、SK2は出土土師器高坏から5世紀前半から中頃に考えられる。

以上のことから遺跡全体の変遷を概観すると、弥生時代後期前半頃にSD2・3が埋没、次にSC1が営まれ後期中頃に廃絶し、SC2の造営が行われる。詳細不明だがSC3もSD2・3埋没後の造営で弥生時代内での消長であろう。古墳時代に入り5世紀前半~中頃にSK2、6世紀後半にはSK1がつくられるが、同時期の竪穴住居は確認されていない。SD1も古墳時代中期以降のものだがSK1・2とのかかわりは不明である。なお、中世に整地されているが今回の調査区内では同時期の遺構は確認されていない。

2) SK1について

甕を横向きで保管するとは考えられず、炊飯具・食器の埋蔵・収藏を目的とした遺構ではないだろう。永遠に放棄する意図をもって埋められたものと理解したい。甕が含まれることから炊飯(強飯)にかかわる行為を想定でき、豊穣などのハレの祭礼に用いられた炊飯具や食器の一括埋納ではなかろうか。

参考・引用文献

柳田康雄1987「高三瀧式と西新町式土器」『弥生文化の研究』4 弥生土器II 雄山閣

相山林継1990「粥と強飯—祭祀遺跡の炊飯具—」『国学院雑誌』第91巻第7号

表1 曲田代遺跡竪穴住居一覧表

※残存壁高に隔壁溝の深さは含まない

造構番号	地図番号	平面形	主柱穴 (cm)	長軸 (m)	短軸 (m)	残存壁高 (m)	隔壁溝	板壁構築 (m)	切り合ひ関係	時期	備考
S C1	第7図	方形	不明	4.67	1.23+ a	0.38	有	0.5~0.6	S D2・3を切り、S C2に切られる。	弥生後期	
S C2	第7図	隅丸方形	不明	3.1+ a	1.0+ a	0.25	有	0.2~0.35	S C1を切り、S D3に切られる。	弥生後期	隔壁溝二重、改変住居か。ガラス小玉出土。
S C3	第7図	隅丸方形	不明	3.6	1.55+ a	0.3	無		S D2・3を切る。	不明	壁際に粘土塊。

表2 曲田代遺跡その他の造構一覧表

造構番号	地図番号	形状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	出土遺物	時期	備考
S K1	第4図	不整形	0.51	0.51	0.40	縦横器壊、土師器鉢・环・瓶	6世紀後半	祭祀土坑。
S K2	第7図	不整形円形	0.55	0.35	0.23	土師器壊	5世紀前半～中頃	S C2を切る。
S D1	第7図		長さ7.1	幅0.1~0.73	0.05~0.29	土師器壊、滑石製口玉	5~6世紀？	南北方向に延び南に下る。
S D2	第7図		長さ6.25	幅0.2~0.5	0.05~0.11	弥生土器	弥生後期後半	S C1・3に切られる。
S D3	第7図		長さ4.5	幅0.2~0.4	0.05~0.12	弥生土器壊	弥生後期	S C1・3に切られる。

表3 曲田代遺跡出土遺物観察表1

単位：cm（ ）は復元値

遺物 報告 番号	遺構 番号	種類	断続	口径	縦高	受部径	底径	形態特徴	調整方法	a) 耐土 b) 燃度 c) 色調	備考	遺物登 録番号
001	SK1	埴輪器	坏蓋	14.4	4.8			完形品。口縁部と天井部との境に小さな段をつくる。口縁端部内面には浅い凹みを持つ。	天井部の1/2強回転ヘラケズリ、他はヨコナデ。	a) やや粗、直径1mm程の砂粒を少量、5mm程の小礫を僅かに含む b) 良好 c) 内面灰オリーブ色、外表面灰～灰白色、自然釉付着	現地取上げNo.6、焼け歪みあり、ロクロ左	00006
002	SK1	埴輪器	坏蓋	13.8	5.4			ほぼ完形品。口縁部と天井部との境に小さな段をつくる。口縁端部内面には浅い凹みを持つ。	天井部の1/2回転ヘラケズリ、天井部内面不定方向ナデ。他はヨコナデ。	a) やや粗、直径2mm以下の砂粒、5mm程の小礫を少量含む b) 良好 c) 内外面とも灰～灰白色	現地取上げNo.18、焼け歪み強、ロクロ右	00018
003	SK1	埴輪器	坏身	12.9	4.8	15.1		ほぼ完形品。受部は体部から自然に立ち上がり。口縁部は内傾して端部を丸く収める。受部内面に沈線をつくる。	体部外側の1/2強回転ヘラケズリ、他はヨコナデ。	a) やや粗、直径1mm以下の砂粒を少量含む b) 不良 c) 内面に古い黄褐色、外表面灰黄色	現地取上げNo.12、ロクロ左、風化進む	00012
004	SK1	埴輪器	坏身	12.8	3.8	15.1		完形品。受部は体部から自然に立ち上がり。口縁部は内傾して端部を丸く収める。受部内面に沈線をつくる。	体部外側の1/2強回転ヘラケズリ、底部内面不定方向ナデ。他はヨコナデ。	a) 良、直径1mm以下の砂粒を少量含む b) 良 c) 内面灰白～灰オリーブ色、外表面灰オリーブ～灰色	現地取上げNo.9、ロクロ右	00009
005	SK1	埴輪器	坏身	12.1	4.2	14.8		完形品。受部のつまみ出しあは小さく横に引きだし、口縁部は強く外反しながら内傾する。受部内面に沈線をつくる。	体部外側の1/3回転ヘラケズリ、底部内面不定方向ナデ。他はヨコナデ。	a) 良、直径3mm以下の砂粒をやや多く含む b) 良好 c) 内外面とも青灰色	試掘時出土、ロクロ右	00046
006	SK1	埴輪器	坏身	11.8	4.6	14.1		完形品。受部のつまみ出しあは小さく横に引きだし、口縁部は強く内傾し、端部を丸く収める。受部内面に甘い沈線をつくる。	体部外側の1/2強回転ヘラケズリ、底部内面不定方向ナデ。他はヨコナデ。	a) やや粗、直径3mm以下の砂粒、5mm程の小礫を少量含む b) 良好 c) 内面灰白色、外表面灰～灰オリーブ色	現地取上げNo.17、ロクロ右	00017
007	SK1	土師器	鉢	18.2	8.0			完形品。底部は扁平気味の丸底で、口縁部は接縫をつくって外傾し、端部を丸く収める。	全面ナデ調整、外面上半にタテ、体部中位に、ヨコ方向の粗いハケ目残存。	a) 精良、直径2mm程の白色砂粒を僅かに含む b) 良好 c) 内外面とも明赤褐色		00001
008	SK1	土師器	鉢	17.0	5.0			完形品。体部は浅く、底部は丸底で、口縁部は甘い接縫をつくって外傾し、端部を丸く収める。	体部外側静止ヘラケズリ後ナデ、内面は丁寧なナデ、口縁部横ナデ。	a) 精良 b) 良好 c) 内外面とも明赤褐色	風化進む	00019
009	SK1	土師器	坏	14.1	5.4			完形品。丸底で口縁部は内溝し端部内面を平坦気味につくる。	体部外側から口縁部内面は風化著しく調整不明、底部内面丁寧なナデ。押抜きえ痕残。	a) 良好、1mm以下の砂粒を少量含む b) 良好 c) 内外面とも明赤褐色		00011
010	SK1	土師器	坏	12.5	5.9			ほぼ完形品。丸底で口縁部は内溝し端部を丸く収める。	体部外側静止ヘラケズリ後ナデ、口縁部外側から内面はヨコナデ仕上げだが、内面にヘラケズリによる工具の接觸痕多数残存。	a) 良好、1mm以下の砂粒、赤褐色粒を僅かに含む b) 良好 c) 内外面とも橙色		00005
011	SK1	土師器	坏	11.8	6.2			完形品。丸底で口縁部は内溝し、端部内面を丸くつくる。	体部外側静止ヘラケズリ後ナデ、口縁部ヨコナデ、内面ヘラケズリ後ナデ、内外面にヘラケズリによる調整痕残存。	a) 良好、1mm以下の砂粒、赤褐色粒を僅かに含む b) 良好 c) 内外面とも橙色		00008

単位:cm () は復元値

表3 曲田代遺跡出土遺物観察表2

遺物 報告 番号	遺構 番号	種類	器種	口径	最高	受部径	底径	形態特徴	調整方法	a) 精良 b) 稲成 c) 色調	備考	遺物登 録番号
012	S K1	土師器	杯	11.6	5.8			完形品。丸底で口縁部は内湾し、端部内面を丸くつくる。	体部外面静止ヘラケズリ後ナデ、口縁部ヨコナデ、内面ケズリ後ナデ、内面にヘラケズリによる工具の接触痕残存。	a) 精良、1mm以下の赤褐色粒を僅かに含む b) 良好 c) 内外面とも橙色		00007
013	S K1	土師器	杯	11.4	5.8			完形品。丸底で口縁部は内湾し、端部を丸く取める。	体部外表面風化のため調整不明。口縁部ヨコナデ、内面ケズリ後ヘラ研磨、内面にヘラケズリによる工具の接触痕残存。	a) 精良、3mm以下の赤褐色粒を少量含む b) 良好 c) 内外面とも橙色		00013
014	S K1	土師器	杯	11.5	5.4			ほぼ完形品。丸底で口縁部はほぼ直状に立ち上がり、端部を丸く取める。	体部外面風化のため調整不明、口縁部ヨコナデ、内面ケズリ後ナデ、内面にヘラケズリによる工具の接触痕多数残存。	a) 精良、微細な砂粒を少量含む b) やや不良 c) 内面橙～に赤い黄橙色、外側に赤～橙色		00015
015	S K1	土師器	杯	10.8	5.1			ほぼ完形品。丸底で口縁部はほぼ直状に立ち上がり、端部を丸く取める。	体部外面静止ヘラケズリ後ナデ、口縁部ヨコナデ、内面ケズリ後ナデ、内面にヘラケズリによる工具の接触痕多数残存。	a) 精良、直徑1mm以下赤褐色粒を僅かに含む b) 良好 c) 内外面とも橙色		00010
016	S K1	土師器	杯	12.3	6.0			ほぼ完形品。丸底で口縁部はほぼ直状に立ち上がり、端部を丸く取める。	体部外表面静止ヘラケズリ後ナデ、口縁部ヨコナデ、内面ケズリ後ナデ、内面にヘラケズリによる工具の接触痕多数残存。	a) 精良、微細な砂粒、直徑2mm以下の赤褐色粒を僅かに含む b) 良好 c) 内外面とも橙色		00004
017	S K1	土師器	杯	12.5	5.9			完形品。丸底で口縁部は僅かに外反し、端部を丸く取める。	体部外表面下半静止ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ、内面ケズリ後ナデ、内面にヘラケズリによる工具の接触痕多数残存。	a) 精良、微細な砂粒、直徑1mm程の赤褐色粒を僅かに含む b) 良好 c) 内外面とも橙色		00020
018	S K1	土師器	杯	12.3	5.8			完形品。丸底で口縁部は僅かに外反し、端部を丸く取める。	体部外表面風化進むが静止ヘラケズリ後ナデ?、口縁部ヨコナデ、内面ケズリ後ナデ、内面にヘラケズリによる工具の接触痕残存。	a) 良好、直徑1mm以下の赤褐色粒を少量含む b) 良好 c) 内面橙色、外側に赤い橙色		00016
019	S K1	土師器	杯	11.2	6.1			完形品。丸底で口縁部は僅かに外反し、端部を丸く取める。	体部外表面風化進むが静止ヘラケズリ後ナデ?、口縁部強いヨコナデ、内面ケズリ後ナデ、内面にヘラケズリによる工具の接触痕残存。	a) 精良、微細な砂粒、直徑2mm以下の赤褐色粒を僅かに含む b) 良好 c) 内外面とも橙色		00002
020	S K1	土師器	杯	11.0	5.8			完形品。丸底で口縁部は僅かに外反し、端部を横すようにして丸く取める。	体部外表面風化進むが静止ヘラケズリ後ナデ?、口縁部ヨコナデ、内面ケズリ後ナデ、内面にヘラケズリによる工具の接触痕残存。	a) 精良、微細な砂粒、赤褐色粒を僅かに含む b) 良好 c) 内外面とも橙色		00003
021	S K1	土師器	杯	10.4	7.5			ほぼ完形品。丸底で口縁部は僅かに外反し、端部を丸く取める。	体部外表面静止ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ、内面ヘラケズリ後ナデ。	a) 良好、直徑2mm以下の赤褐色粒を少量含む b) 良好 c) 内外面とも橙色	試掘時出土	00045

表3 曲田代遺跡出土遺物観察表3

単位:cm ()は復元値

遺物 報告 番号	遺構 番号	種類	器種	口径	器高	受部径	底径	形態特徴	調整方法	a) 砂土 b) 摺成 c) 色調	備考	遺物登 録番号
022	S K1	土鍋器	杯	10.4	7.5			定形品。丸底で口縁部は僅かに外反し、端部を丸く收める。	体部外面修正ヘラケズリ後ナデ、口縁部ヨコナデ、内面ヘラケズリ後ナデ。	a) 良好、直徑1mm以下の砂粒、2mm以下の赤褐色粒を少量含む b) 良好 c) 内面に赤い橙色、外 面橙色		00014
023	S K1	土師器	瓶	(29.4)	26.7	9.1		1/3残存。底部は段を渡し2ヶの半月形スカシを作る。体部は外傾して直状に立ち上がり、口縁部を僅かに外反させ端部を丸く收める。残存不良で把手の有無不明。	体部外面タテ方向ハケ目、口縁部ヨコナデ。内面下半細かいタテ方 向ハケ目。	a) 精良、直徑1mm以下の砂粒、 3mm赤褐色粒を僅かに含む b) 良 好 c) 内面に赤い橙色、外 面橙色		00021
024	S K2	土師器	尚坏	14.4	12.7		脚底径 11.2	坏部は段を持って屈曲し、口縁端部は僅かに外反させる。脚部は脚部で屈曲し屈平ながらも端部で立脚する。	風化が進むが、坏部上半ヨコナデ、脚部内面ヨコ方向のヘラケズリ、他はナデ。	a) 良好、直徑1mm以下の砂粒を 僅かに含む b) 良好 c) 内外面とも 橙色	外面黒斑あり	00022
025	S C1	弥生土器	甕		残存 10.0			体部はあまり張らず、口縁部を強 く外反させ、端部を断面矩形に收 める。	風化著しく調整不明。	a) 良、直徑3mm以下の砂粒を多 く含む b) 良 c) 内外面とも明 顯～に赤い褐色		00026
026	S C1	弥生土器	甕		残存4.0			口縁部を強く外反させ。端部を断 面矩形に收める。	風化著しく調整不明。	a) 良、直徑3mm以下の砂粒を含 む b) 良 c) 内面程～に赤い黃褐色、 外 面橙色		00025
027	S C1	弥生土器	甕		残存4.4			口縁部を強く外反させ。端部を丸 く收める。	風化著しく調整不明。	a) 良、直徑1mm以下の砂粒を少 量含む b) 良 c) 内外面とも赤褐 ～に赤褐色		00024
028	S C1	弥生土器	甕		残存5.9			体部は強く張り、口縁部を強く外 反させ、端部を断面矩形に收める。	風化著しいが、体部内面に接合痕、 指頭痕残存。	a) 良、直徑2mm以下の砂粒を多 く含む b) 良 c) 内面橙色、外 面赤褐色		00023
029	S C1	弥生土器	甕or甌		残存2.1		(6.8)	1/2残存。凸レンズ状平底。	内面ナデ。他は風化のため不明。	a) 良、直徑3mm以下の砂粒を多 く含む b) 良 c) 内面灰褐色～に 赤褐色、外 面赤褐色		00030
030	S C1	弥生土器	甕or甌		残存1.7		(10.0)	1/2残存。凸レンズ状平底。	底部外面ハケ目。他はナデ	a) 良、直徑4mm以下の砂粒を多 く含む b) 良 c) 内面橙色、外 面明赤褐色		00027
031	S C1	弥生土器	甕or甌		残存3.1		(10.0)	1/2残存。凸レンズ状平底。	底部外面風化のため調整不明、内 面ハケ目。	a) 良、直徑3mm以下の砂粒を多 く含む b) 良 c) 内面橙色、外 面橙～に赤い黃褐色		00029
032	S C1	弥生土器	器台	11.9	残存9.9	くびれ 径7.4		下半を失うが器身は厚く。口縁部 は大きく外反し、端部外面をやや 平坦に作る。	風化著しく調整不明。	a) 良、直徑3mm以下の砂粒を多 く含む b) 良 c) 内外面とも橙色		00028
033	S C2	弥生土器	器台		残存5.3			体部中位の小片。	外面ハケ目、内面ナデ。	a) 良、直徑2mm以下の砂粒を含 む b) 良 c) 内外面とも橙色		00031

表3 曲田代遺跡出土遺物観察表4

単位: cm ()は復元値

遺物 報告 番号	遺構 番号	種類	器種	口径	器高	受部径	底径	形態特徴	調整方法	a) 胎土 b) 焼成 c) 色調	備考	遺物登 録番号
034	S C2	弥生土器?	手捏ね土器	5.6	3.1			ほぼ完形品。丸底で半月形、口縁端部を丸く取める。	指ナデ、指押さえ。	a) 良、直徑1mm以下の砂粒、赤褐色を含む b) 良好 c) 内外面とも橙色		00032
035	S C3	弥生土器?	手捏ね土器	6.3				4/5片。尖り気味の丸底で、口縁端部を丸く取める。	指ナデ、指押さえ。	a) 良、直徑1mm以下の砂粒を少量含む b) 良好 c) 内外面とも橙色	外面墨斑あり	00033
036	S D1	土師器	甕		残存4.7			体部小片。肩部はあまり張らない。	外面粗いハケ目、内面ヨコ方向へラケズリ。	a) 良、直徑1mm以下の砂粒、赤褐色を含む b) 良好 c) 内外面とも黄褐色	外面焼付着、(037と同一個体)	00042
037	S D1	土師器	甕	(16.6)	残存4.7			口縁部小片。口頭部に幾線を握り締めやかに外反する。	口縁部内面ハケ目後ヨコナデ、外 面ヨコナデ。肩部外面タテ方向ハ ケ目。	a) 良、直徑1mm以下の砂粒、赤褐色を含む b) 良好 c) 内外面とも黄褐色	外面焼付着、(036と同一個体)	00041
038	S D2	弥生土器	鉢		残存4.0			口縁部小片。体部内溝、口縁端部内面に小さな段を作る。	外面風化のため調整不明。内面粗 いハケ目、口縁部ハケ目後ヨコナ デ。	a) 良好、直徑2mm以下の砂粒を少 量含む b) 良 c) 内外面とも橙褐色	外面黒斑あり	00044
039	S D2	弥生土器	壺or甕		残存7.4		(7.8)	体部上半を欠く1/4片。	風化著しく調整不明。	a) 良、直徑1mm以下の砂粒、赤褐色を含む b) やや甘い c) 内面橙色、外面にぶい橙~橙色		00043
040	S D3	弥生土器	器台	(11.3)	残存5.3			1/4残存。口縁端部肥厚する。	内面シボリ痕跡、他は風化のため 調整不明。	a) 良、直徑2mm以下の砂粒を多 く含む b) 良 c) 内外面とも橙色		00035
041	S D3	弥生土器	器台		残存8.4		脚底径 12.8	1/2脚残存。脚部は板状に開き、 脚端部を丸く取める。	くびれ部内面にシボリ痕、他は風 化のため調整不明。	a) 良、直徑2mm以下の砂粒、赤褐色を含む b) 良 c) 内面橙色、 外面橙~明赤褐色		00034
042	S D3	弥生土器	壺?		残存5.6			口縁部小片。複合口縁状であるが、 口頭部が僅かに内溝しながら立ち上 がる。	口縁部内面粗いタテ方向ハケ目。 他は風化のため調整不明。	a) 良、直徑1mm以下の砂粒を少 量含む b) 良 c) 内面にぶい橙色、 外面にぶい赤褐色	器形不詳	00036
043	包含層 (調査区 南半)	弥生土器	蓋台		残存9.2		脚底径 10.6	1/2残存。脚部は直状に開き、端 部を丸く取める。	外面タテ方向ハケ目。内面ヨコ方 向ハケ目。	a) 良、直徑3mm以下の砂粒を多 く含む b) 良好 c) 内外面とも橙色		00037
044	S C2	ガラス	小玉	直徑0.41	孔径 0.08	厚さ 0.29				c) コバルトブルー		00038
045	S C2	ガラス	小玉	直徑0.53	孔径 0.12	厚さ 0.43				c) コバルトブルー		00039
046	S D1	滑石	白玉	直徑0.62	孔径 0.23	厚さ 0.23			周縁部にタテ方向研磨痕。	c) オリーブ灰色		00040

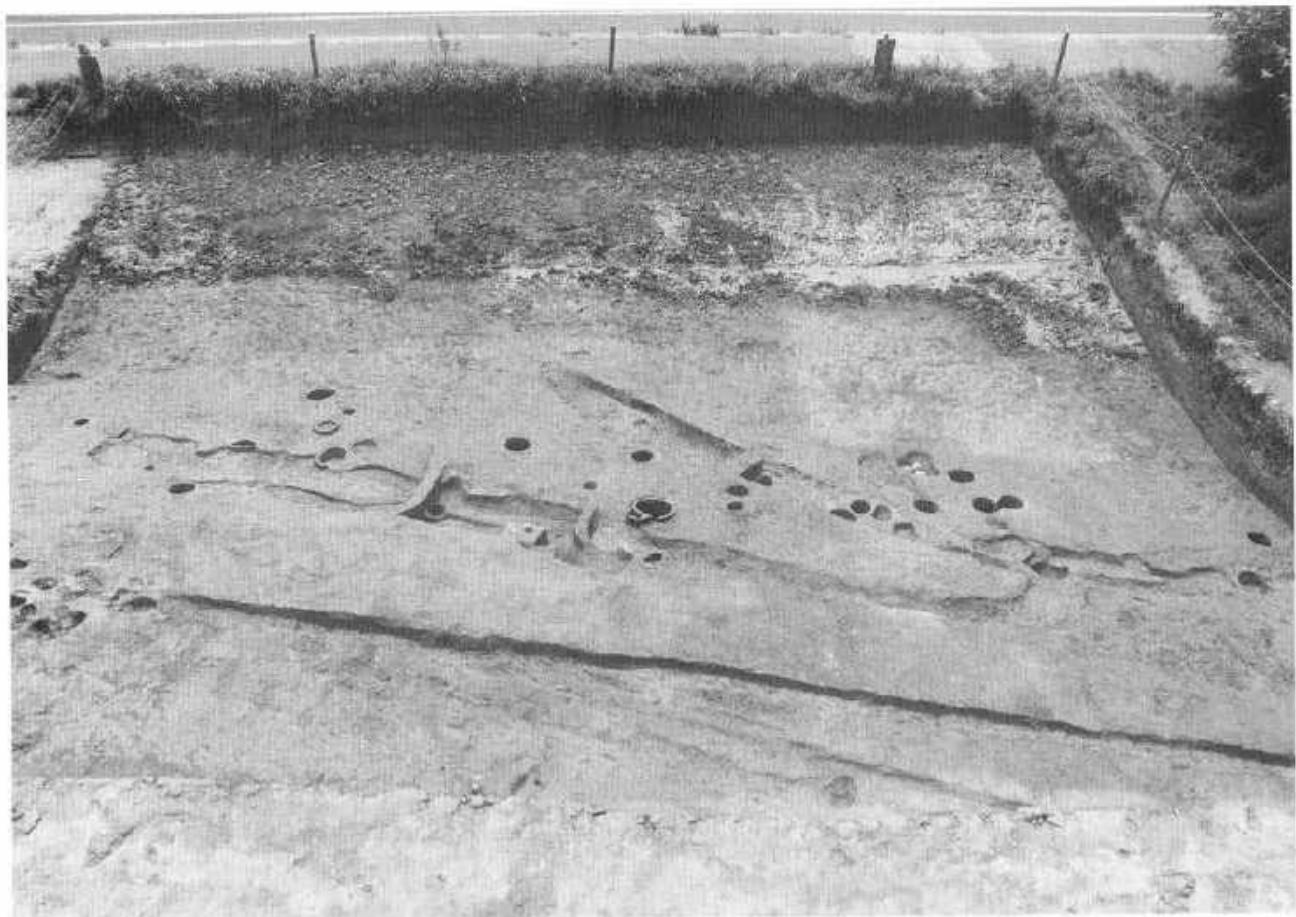


(1) 調査区遠景（西から）



(2) 調査区全景（南から）

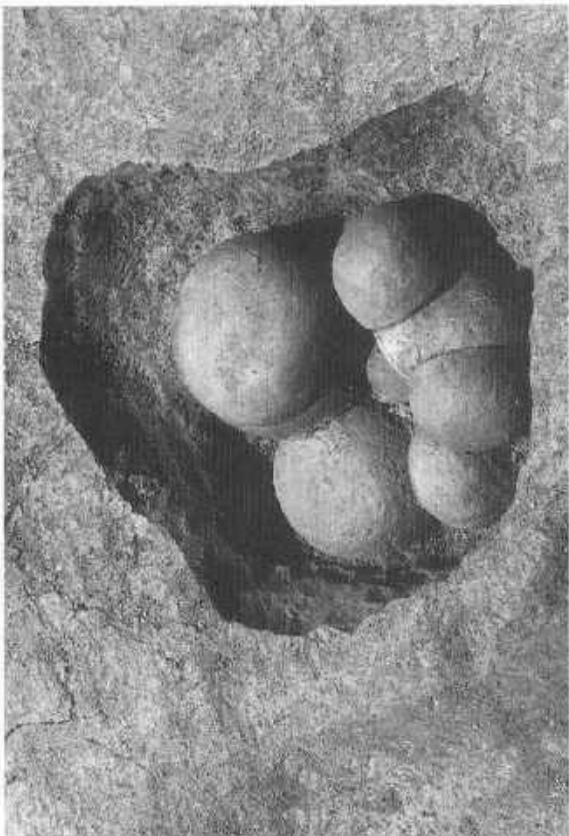
図版2



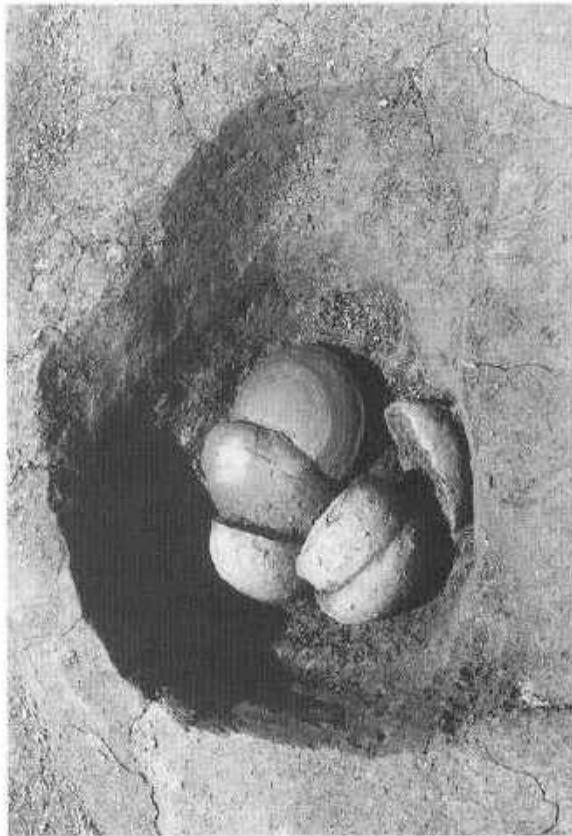
(1) 調査区全景（東から）



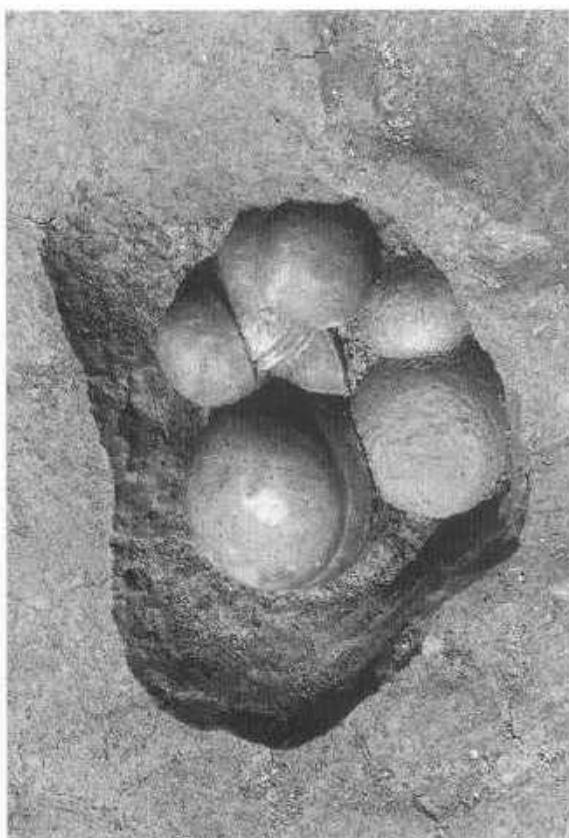
(2) SK1 - SC1 - SD1周辺（西から）



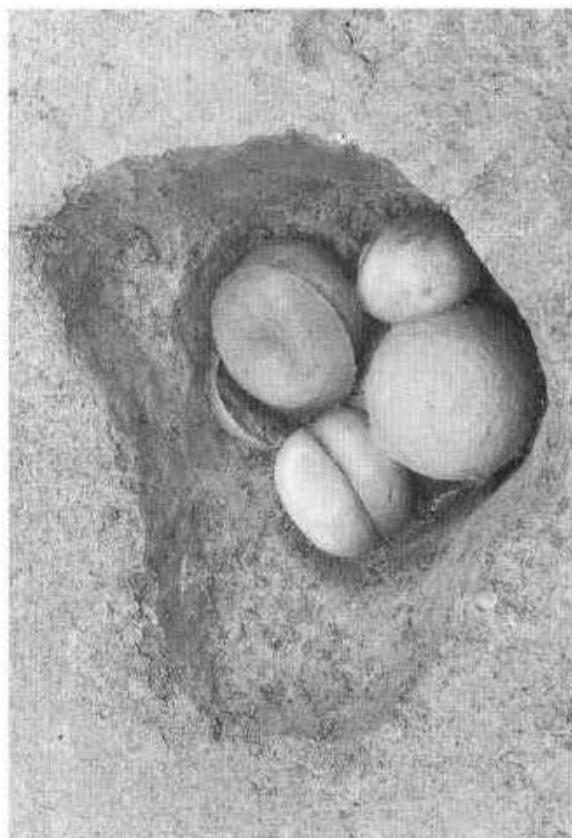
(2) SK 1 上層遺物出土状況 (007他、東から)



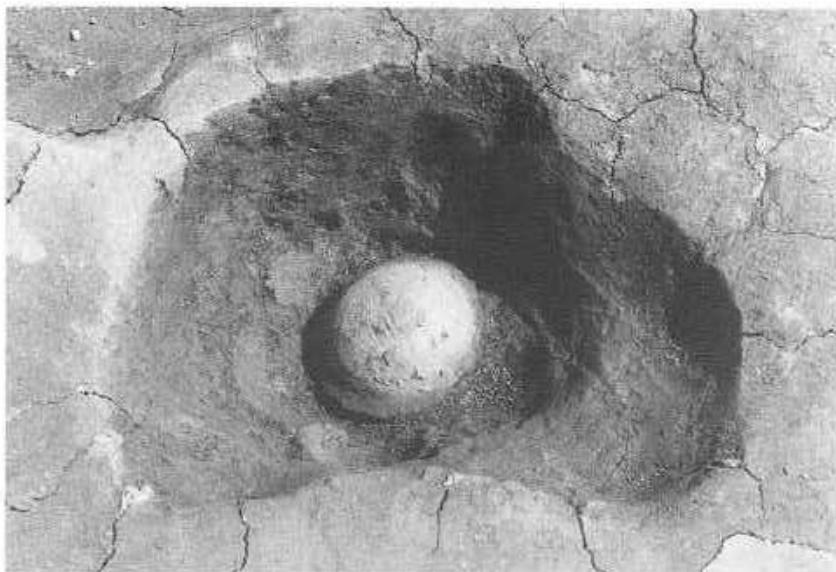
(4) SK 1 中層遺物出土状況 (002・006他、北から)



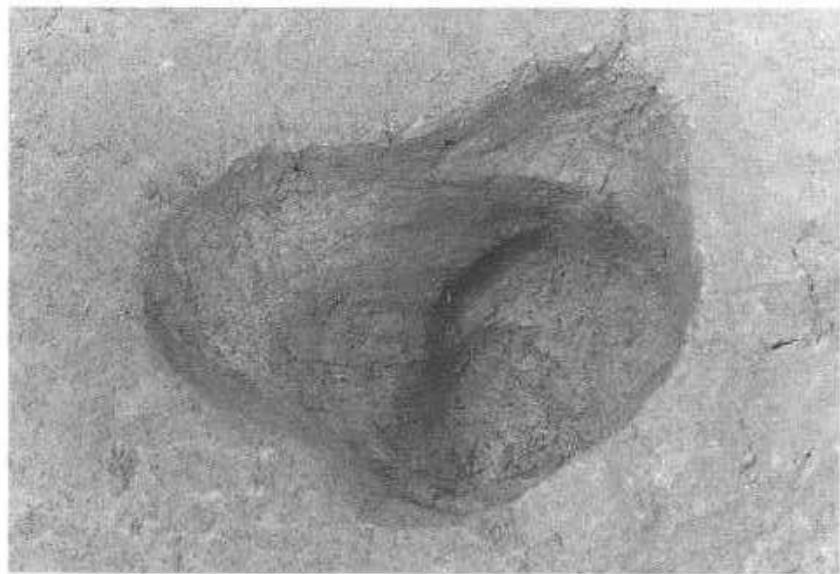
(1) SK 1 上層遺物出土状況 (007他、南から)



(3) SK 1 中層遺物出土状況 (003・004他、南から)



(1) SK 1 下層遺物出土状況 (008、北から)



(2) SK 1 完掘状況 (南から)



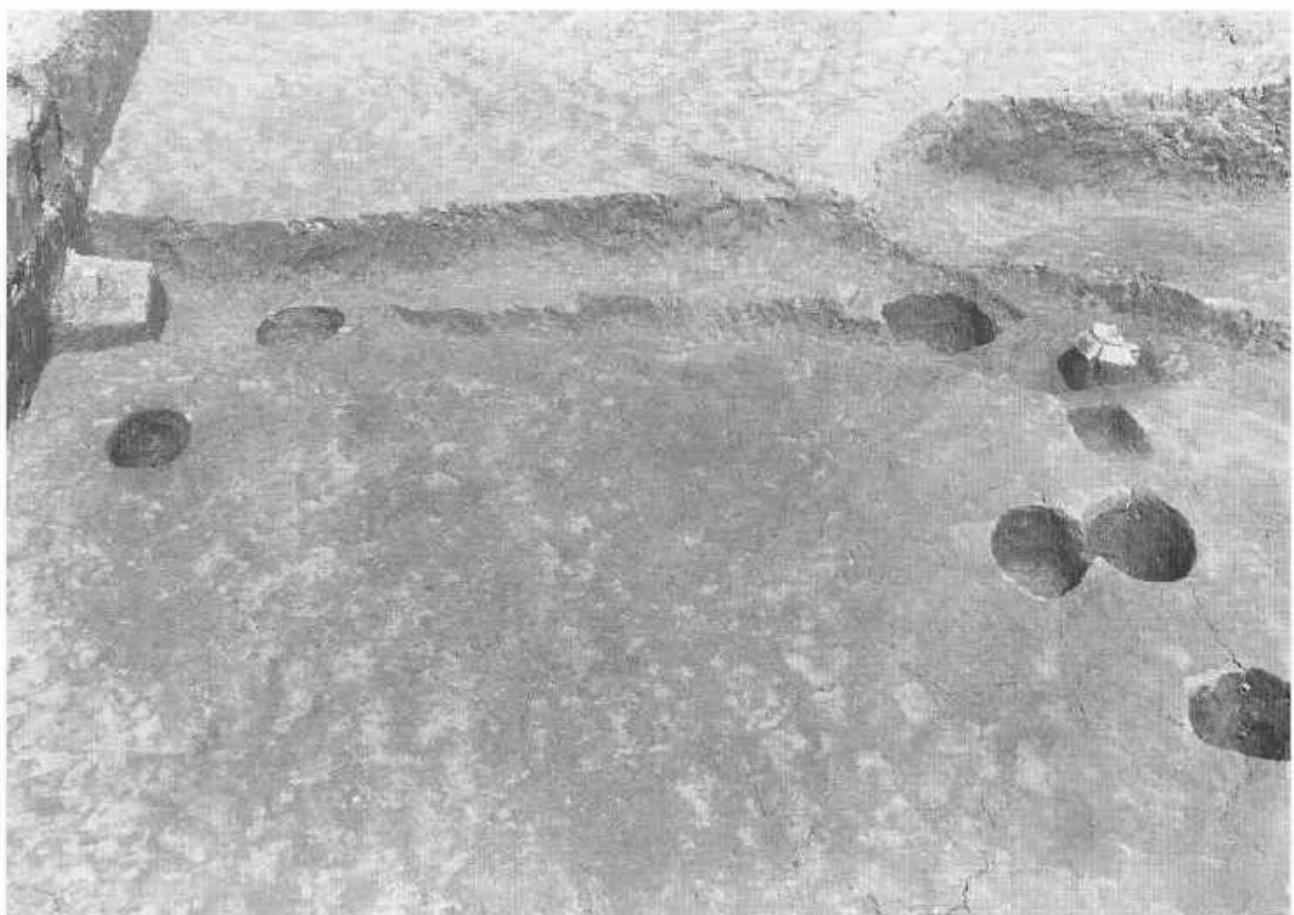
(3) SK 2 遺物出土状況 (024、北から)



(4) SK 2 完掘状況 (西から)

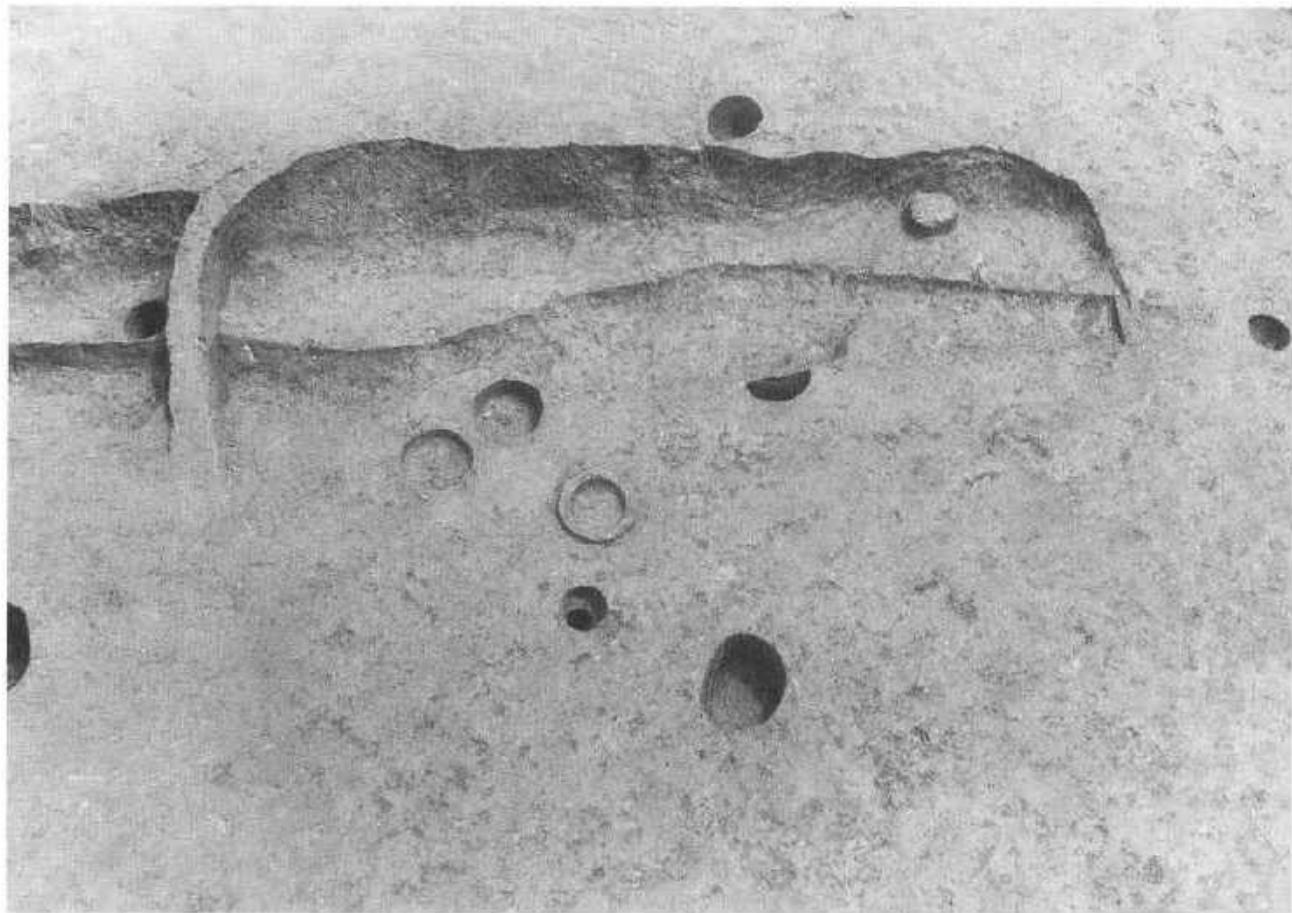


(1) S C 1 (西から)

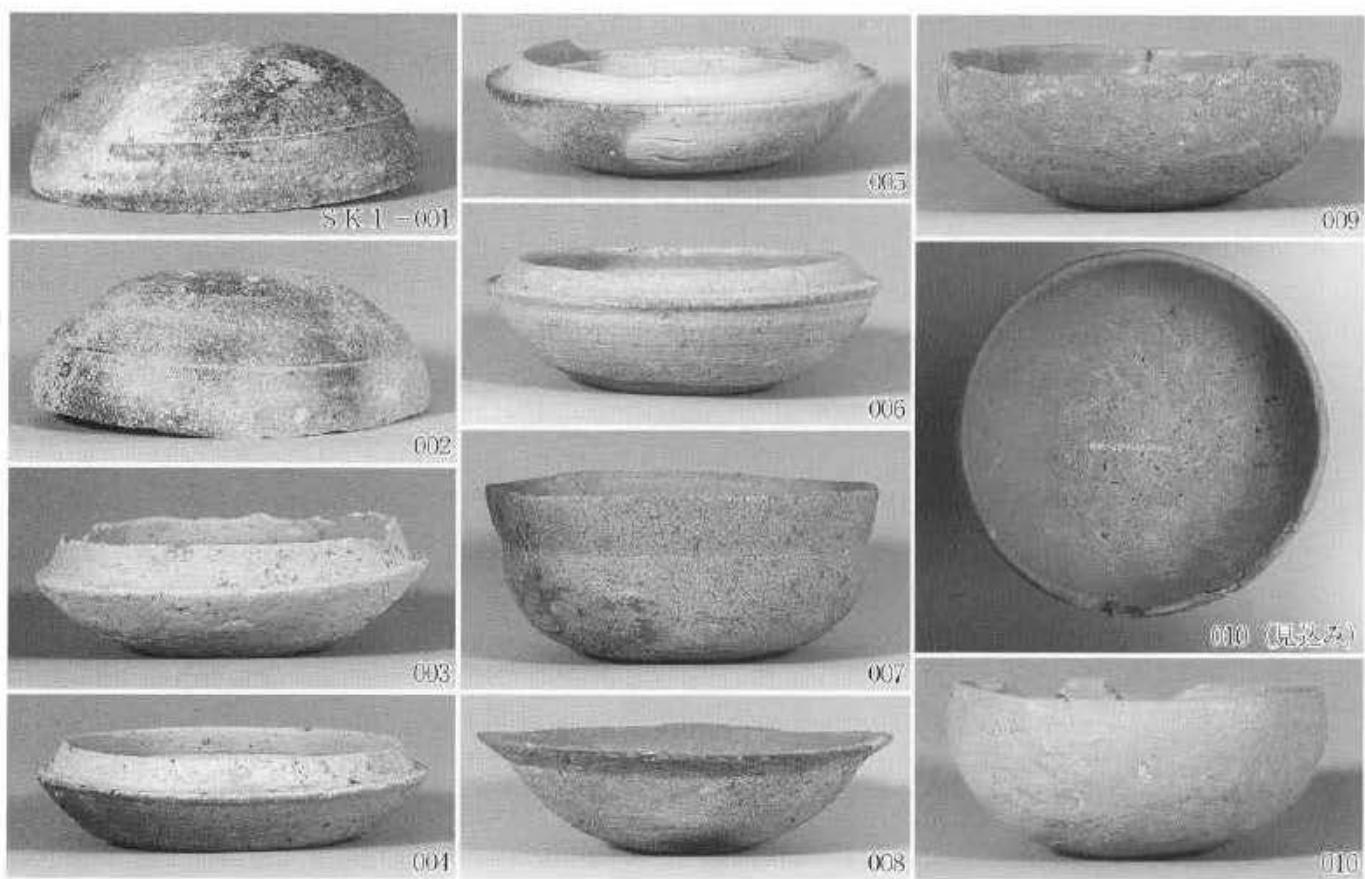


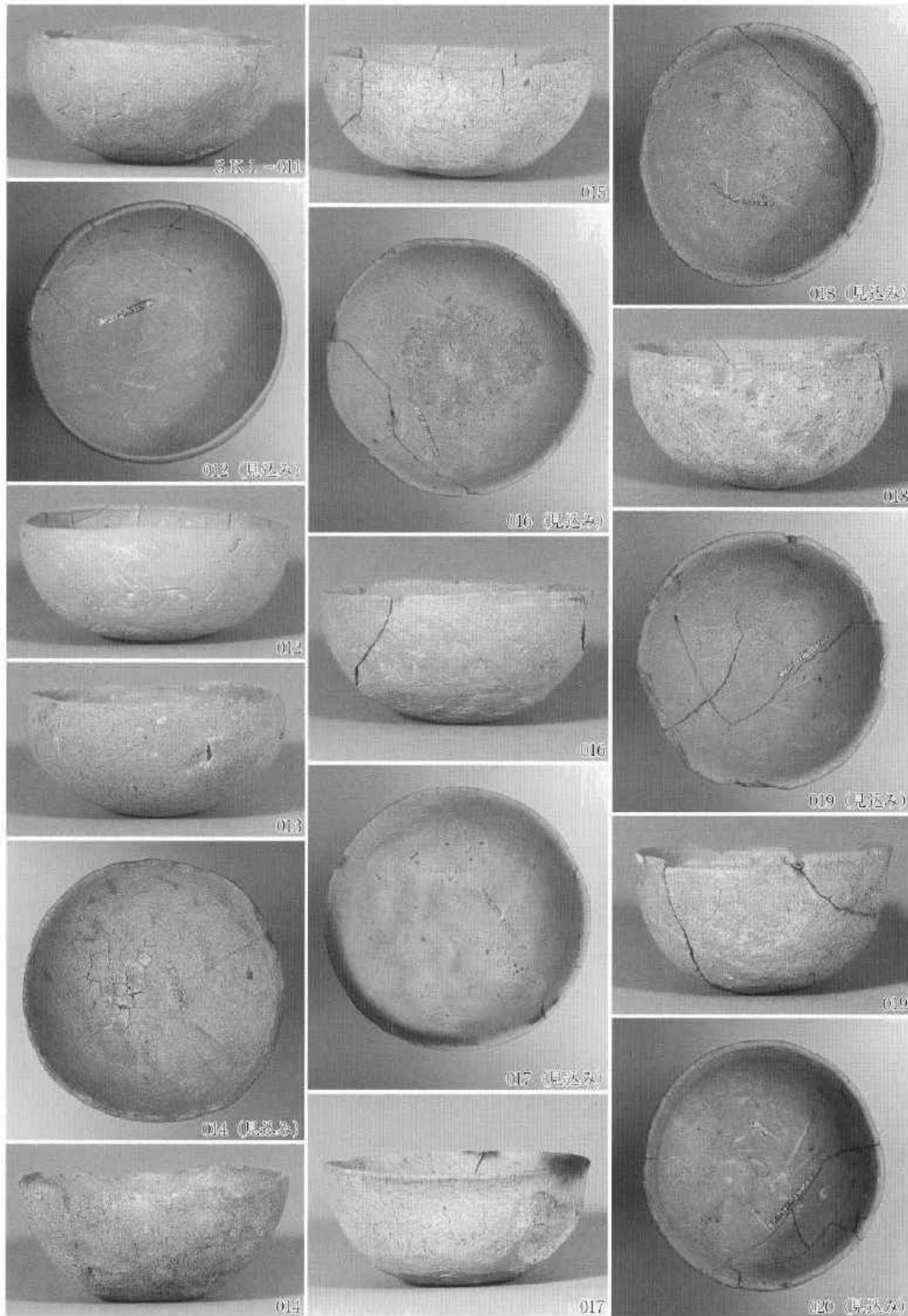
(2) S C 2 (西から)

図版 6

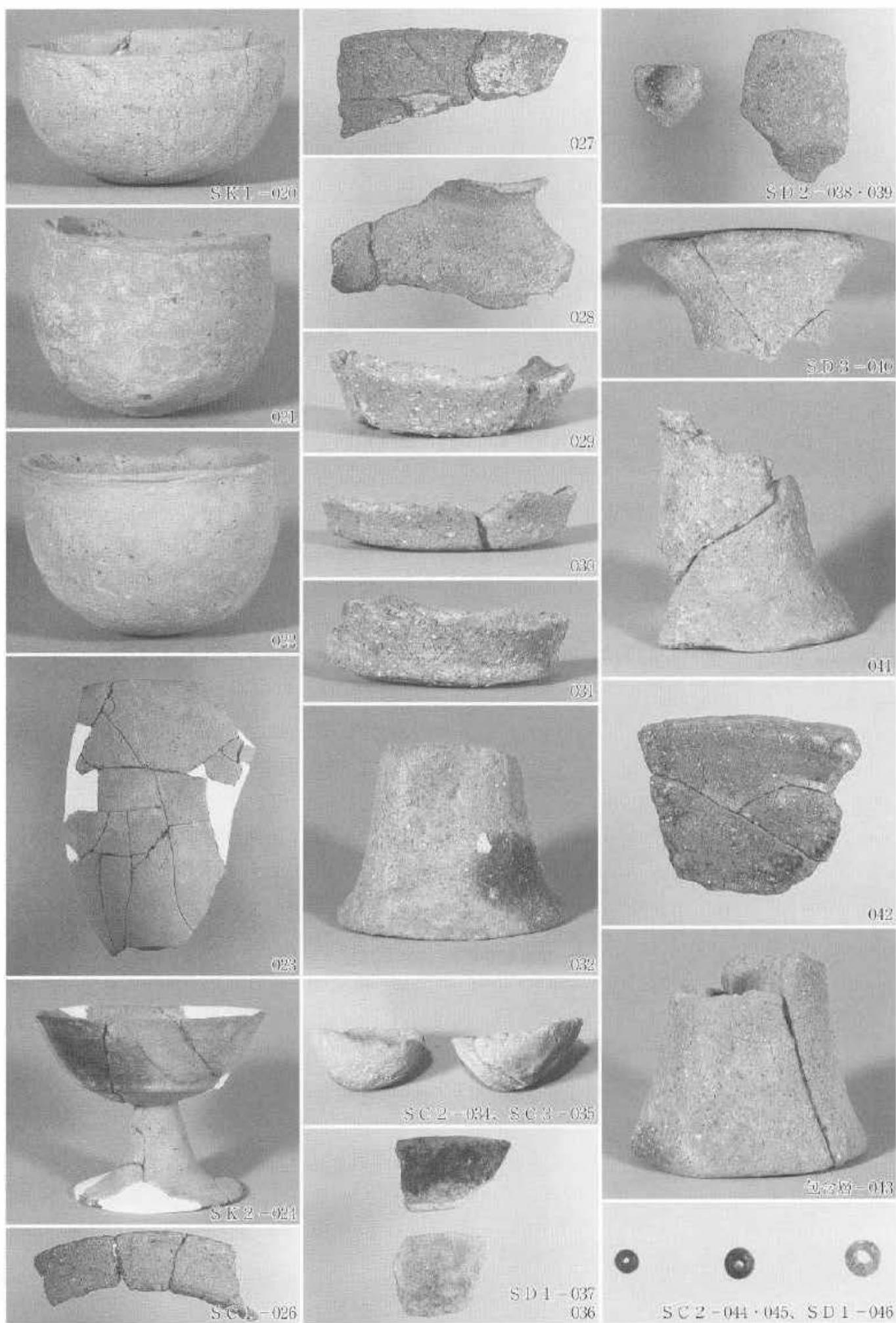


(1) SC 3, SD 2・3 (西から)





図版8



報告書抄録

フリガナ	マガリタシロ							
書名	曲田代							
翻書名	福岡県宗像市曲所在遺跡の発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	宗像市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第54集							
著者名	白木英敏							
編集機関	宗像市教育委員会							
所在地	〒811-3492 福岡県宗像市東郷一丁目1番1号 TEL (0940) 36-1540							
発行年月日	西暦2004年2月25日							
フリガナ 所取遺跡	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
曲田代遺跡	宗像市曲 227番2	40220	330806	33° 47' 26"	130° 34' 06"	2002年4月4日～ 2002年5月31日	約120m ²	宅地造成
所取遺跡名	種別	主な時代	主な造構	主な遺物			特記事項	
曲田代遺跡	集落	弥生・ 古墳時代	堅穴住居・土坑	弥生土器・土師器 須恵器・玉類			土師器・須恵器の埋納 造構 (SK1)	

曲田代

宗像市文化財調査報告書 第54集

平成16年2月25日

発行 宗像市教育委員会
福岡県宗像市東郷一丁目1番1号

印刷 株式会社 西日本新聞印刷
福岡市博多区吉塚8丁目2番15号

